

氏名	杜 徳 尚
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4048 号
学位授与の日付	平成22年 3月25日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学（一）専攻 （学位規則第4条第1項該当）

学位論文題目 Atrial Electrophysiological and Structural Remodeling in High-Risk Patients with Brugada Syndrome: Assessment with Electrophysiology and Echocardiography  
(ハイリスクBrugada症候群患者における心房の電氣的・構造的リモデリングについての検討)

論文審査委員 教授 成瀬 恵治 教授 佐野 俊二 准教授 溝渕 知司

#### 学位論文内容の要旨

Brugada 症候群では心房細動(AF)を合併する症例が多くみられるが、AF 合併症例ではしばしば心室細動(VF)の既往を認める。Brugada 症候群において心房の電気生理学的特徴はよく知られているが、心房の構造的特徴については報告がない。今回、我々は Brugada 症候群における電気生理学的、構造的特徴とそれらの遺伝子変異(*SCN5A* 変異)との関連について検討した。全 57 例の Brugada 症候群患者を対象とし、全例に電気生理学的検査より心房内伝導時間(CT)、心エコー図検査より左房容積係数(LAVI)を求め、*SCN5A* 遺伝子変異の検索を行った。VF の既往がある群では、高頻度に AF の合併を認め、CT の延長と LAVI の増大を認めた。さらに、AF を合併しない群においても VF の既往がある症例では CT と LAVI は有意に高値を示した。*SCN5A* 遺伝子変異が存在する群では CT の延長と LAVI の増大を認めるものの、不整脈イベントの既往との関連は認めなかった。従って、ハイリスク Brugada 症候群患者においては、たとえ AF の合併が無くとも心房の電氣的、構造的リモデリングが亢進していることが示された。

#### 論文審査結果の要旨

Brugada 症候群では心房細動(AF)を合併する症例が多くみられるが、AF 合併症例ではしばしば心室細動(VF)の既往を認める。Brugada 症候群において心房の電気生理学的特徴はよく知られているが、心房の構造的特徴については報告がない。本論文では Brugada 症候群における電気生理学的、構造的特徴とそれらの遺伝子変異(*SCN5A* 変異)との関連について検討した。全 57 例の Brugada 症候群患者を対象とし、全例に電気生理学的検査より心房内伝導時間(CT)、心エコー図検査より左房容積係数(LAVI)を求め、*SCN5A* 遺伝子変異の検索を行った。VF の既往がある群では、高頻度に AF の合併を認め、CT の延長と LAVI の増大を認めた。さらに、AF を合併しない群においても VF の既往がある症例では CT と LAVI は有意に高値を示した。*SCN5A* 遺伝子変異が存在する群では CT の延長と LAVI の増大を認めるものの、不整脈イベントの既往との関連は認めなかった。従って、ハイリスク Brugada 症候群患者において AF の合併が無くとも心房の電氣的、構造的リモデリングが亢進している可能性を示した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。